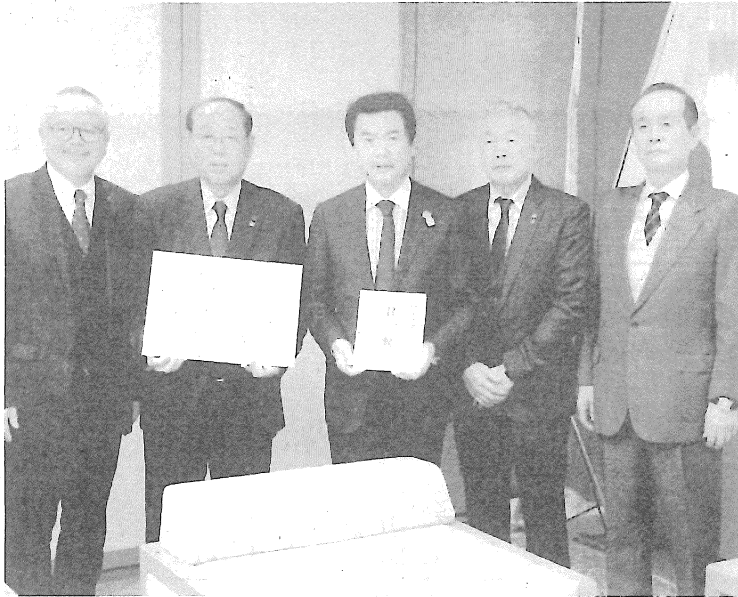


宇都宮市管工事業協同組合

宇都宮市管工事業協同組合(和田均理事長)は、19号による被災者への義援金として、宇都宮市に昨年10月に発生した台風100万円を寄付。目録



和田理事長が感謝状を手に記念撮影

台風被災者へ義援金

佐藤市長が感謝状贈呈

1/22
〈日刊建設〉

ならびに感謝状の贈呈式が16日、同市役所で行われた。

運ができてい」と語り、一日も早い復旧・復興を願った。

贈呈式には、同組合から和田理事長、小牧伸敏副理事長、山本幹夫副理事長、川中子武保専務理事が出席。市からは佐藤栄一市長のほか、保健福祉部保健福祉総務課の長谷部敬課長と根岸正典課長補佐が同席した。

義援金の目録を受け取り、感謝状を贈呈した佐藤市長は「ご寄付は大変ありがたい。被災者支援のために有効活用してまいりたい」と謝辞。和田理事長は「義援金は組合の事業収益から拠出したもの。業界団体には、有事の際に地域貢献する機

その後の懇談の中で、和田理事長は「本県は災害が少ないと言われていたが、近年は雨の降り方が変わってきている。同じ箇所でもまた災害が起らないよう、改良復旧を実施してほしい」と要望。佐藤市長も「今回の甚大な被害を受け、ハザードマップを改訂する。今後自然災害の発生が予測されるので、市内各地区で防災訓練を実施し、避難のしかたや適切な対応を身に付けてほしい」と現状の課題に言及。災害ボランティアのあり方についても持論を述べた。